

7. 祈りとは

1. 私を変える

「祈りは、神を私どもにまで呼びおろすのではなく、私どもを神の許へひき上げるのであります」（『キリストへの道』118頁）。

2. 子どもとして マタイ7：7～12

「私どもの天の父は、あふれるばかり祝福を私どもに与えたいと待っていておいでになります。限りなき愛の泉のほとりで思う存分飲むことは、私どもの特権であります。それなのに私どもが少ししか祈らないのは、なんと不思議なことでありましょう（同上120頁）。

3. 他者のため マタイ7：7～12 ルカ11：5～8

4. 感じなくとも

「特別な証拠が与えられなくても、それは事実であります。またかれのみ手の接触を実際には感じなくとも、愛とあわれみにみちたやさしいみ手は、私どもの上に置かれているのであります」（同上124頁）。

5. 密室で マタイ6：6

「わけても、密室の祈りをおろそかにしてはなりません。これは、魂のいのちであるからであります。祈りをおろそかにしていながら、魂の健全を願うことはできません」（同上126頁）。

「わたしたちは、キリストを日々の友とすると、見えざる世界の力に囲まれているのを感じ、イエスを見つめるとによってそのみかたちに似た者となるのである」（『祝福の山』104頁）。

6. ゆだねて 分別を持つ マタイ6：34

「どんな望み、喜び、悲しみ、わずらい、恐れもみな神の前におきましょう。なにをもってきて重すぎたり、神を疲れさせたりすることはありません」（『キリストへの道』128頁）。

7. 讚美して

「私どもは、もっと神をほめたたえねばなりません。私どもの祈りは、ただ求めること、与えられることだけであってはなりません」（同上132頁）。

8. 導かれて 祈りは祈りを生む

「ヤコブは、『わたしを祝福してくださらないなら、あなたを去らせません』と切に訴えた(創世記32：26)。この堅固な精神は、ヤコブの組み打ちの相手であった主によって吹き込まれたものであった。彼に勝利を与えたのはキリストであった」（『祝福の山』180頁）。

9. 共に マタイ18：19

私たちが祈りによってつながるとき、私たちは互いに励まし合い、その祈りは補強され、互いの信仰は強められます。継続的に祈り続けることができますようになります。祈りが整えられます。喜びも悲しみも、力と弱さも、痛みも癒しも共にあずかることができます。何よりも主がそこに居てくださいます。